



なきごえ



1988

1

大阪市
天王寺動物園協会

親バカの記

難波利三



僕が初めてライオンを見たのは、天王寺動物園だった。昭和33年の春、島根県から大阪へ出てきて、大学の寮に住み込んだが、それから間もない日曜日、数人の寮友らと連れ立って動物園へ出かけた。

ライオンだけではなく、トラもゾウもキリンも、その他の動物たちも、そのとき初めてお目にかかった。僕だけではなく、地方出身の他の友達も、恐らく同じであったと思う。凄いなあを連発して、一同、見とれていた覚えがある。

いま、わが家にはネコが三匹いる。キジネコとか称する縞柄の雑種で、この種類は戦後、進駐軍が持ち込んでから増えたい。

わが家で君臨しているのは、13歳になるチーコで、その子供のシマコとイノコも、すでに10歳半になる。いずれもメスで、シマコは鮮やかな縞柄から、イノコは生まれたとき、イノシシに似ていたので、そんな名前が付いた。

人間の子供がいなくて、僕ら夫婦にとっては、この3匹、いや、この子らがすでに子供と化している。当然のことながら、それぞれに個性があり、チーコはさすがに母親らしく、しっかりもので、親(僕ら)に迷惑をかけたためしが無い。キャットフードは見向きもせず、カツオ飯の粗食が好きである。人間好きでもあり、来客のときは真っ先に出迎え、帰るまでそばを離れようとしな。自分も人間だと思っ込んでいるらしい。

反対に、イノコは人嫌いの臆病もので、客がインターホンを鳴らすだけで2階へ駆け上がり、自分で

なきごえ1月号もくじ

動物と私2
“アカカンガルー初顔見せ” 3
動物園グラフ・動物園日記 4・5
辰の郷土玩具 6・7
ドラゴンにまつわる話 8・9
ケンちゃんの好きやねん動物園 ⑥ 10
動物園ニュース 11

押し入れを開けて布団の中へもぐり込む。そのまま、2時間でも3時間でも、絶対、姿を現わさない。そして、客が帰ったとたん、「ああ、しんどかったな」と言うように、大声で鳴きながら2階から下りてくる。内弁慶なのだ。

シマコは病弱で、てんかんの持病がある。3日1度、抗てんかん剤を与えているが、それでも月に1、2度、発作に見舞われる。その時は修羅場だ。おとなしく眠っていたのが、不意に唸りを上げて部屋中を走り回る。バスタオルを常備しており、僕がそれをかぶせに押さえようとするのだが、暴れるのでうまくいかぬ。すると、シマコは壁やタンスにぶつかり、顔面をすりむき、鼻血を出す。そして、横倒れになり、全身激しく痙攣させながら、失禁する。辺りかまわず、小便をふりまく。おかげで僕は、もう何度も、その洗礼を浴びている。ときには、口の中にまで。だが汚ないとは思わない。手をわずらわされる分だけ、特にこの子が可愛い。

そう言えば、3匹とも、ウンチにも特徴がある。チーコは普通、イノコは便秘気味なので、黒くて固い。シマコはミルク好きのせいで、いつもやわらかい。無論、ウンチ一目見ただけでどの子のものか、すぐ分かる。

しかし、考えてみれば、動物園には何百種類もの動物たちがいて、しかも、それぞれ個性が違うのだから、世話をするのはさぞ大変だろうと推察する。好きでなければ、愛情がなければ、務まらない仕事である。

ネコたちに囲まれていると、僕はときどき、自分もネコになった錯覚に陥り、ニャンと鳴いてみたりして、本物たちを気味悪がらせるが、動物園の方々にも同じような体験があるのだろうか。ライオンの気持ちは、ゾウの気持ちは、一体どうなのか、味わってみたいものである。

(作家)

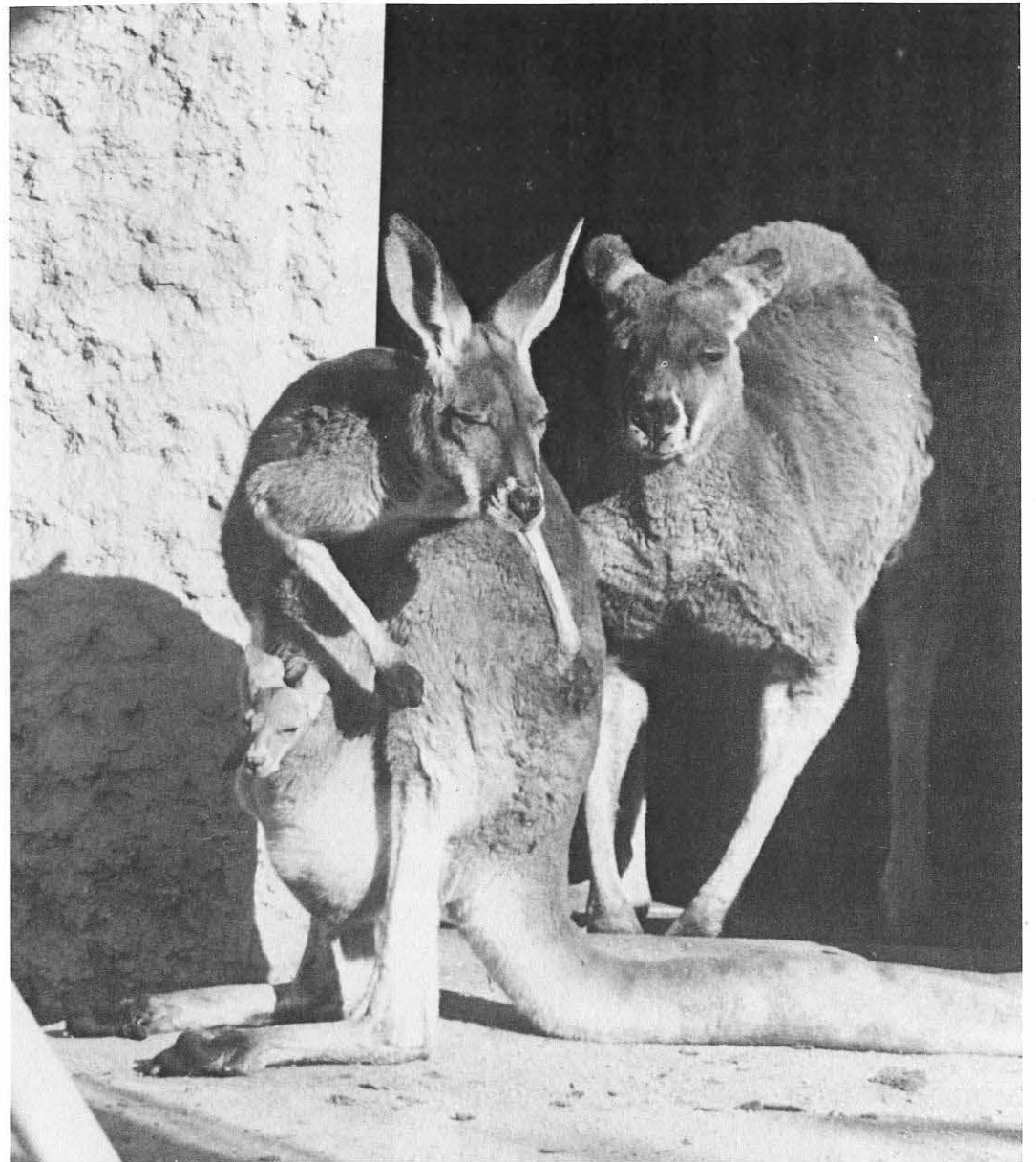
表紙の写真説明

ウォータードラゴン

Physignathus sp.

辰年の新年号の表紙はドラゴンで飾ってみました。いかめしい名前ではありますが尾の先端まで入れても20cm位の小さな可愛いトカゲです。またギョロリと開いた目も愛嬌たっぷりです。

(撮影：長瀬健二郎)



“アカカンガルー初顔見せ”

私のおふくろさんは、6年前、私と同じように親の袋の中でミルクを飲んでいただけ、理由もなく外に放り出されてしまい、人の手で育てられたの。でも、私は暖い母の袋の中でスクスク育っています。

(撮影：森本委利)

“竜に近いトカゲたち”

今年は架空動物のスーパースターである竜の年です。そこで、天王寺動物園で飼育している竜に最も近いと思われるトカゲの仲間を紹介してみました。(撮影:大野尊信)

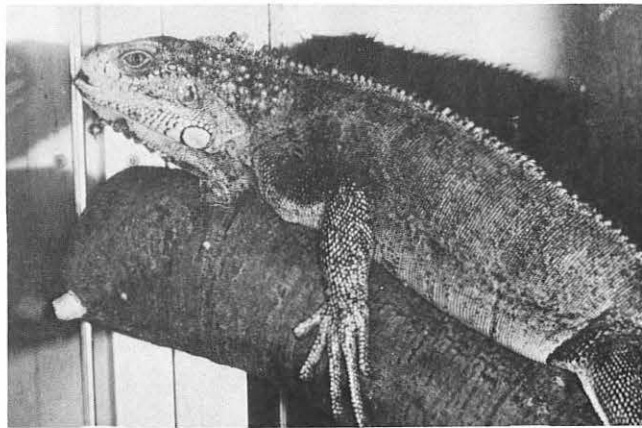
動物園グラフ



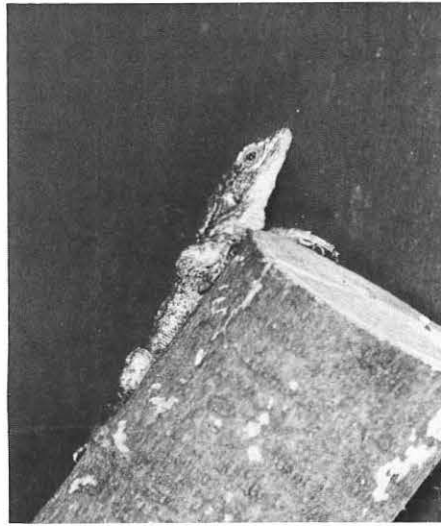
ウォータードラゴン
まだまだ子供ですが竜の風格がありますか?



ウォータードラゴン
仲々可愛い顔をしているでしょう。



グリーイグアナ
全長は1m以上もあります



アルゼンチンスペイグアナ
色の鮮かな小さなトカゲです。

11・12月の動物園日記

- 11/5. 人工哺育中のアカカンガルーの体の計測を行ないました。
- 11/6. フクロギツネが2回交尾しました。
- 11/7. 本年生まれのアシカの子の体重測定を行ないました。
- 11/8. ゴリラ舎の暖房をはじめました。天王寺博覧会が閉幕し、秋の動物園まつりも終了しました。
- 11/9. トラのメス“ミン”の便によく不消化物が混じるため、麻酔し血液検査を行ないました。
- 11/11. チンパンジーのオス“リッキー”が下痢の

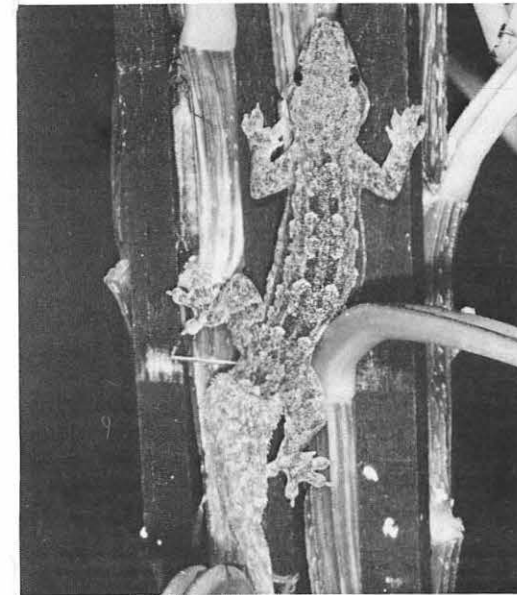
- ため治療をはじめました。
- 11/13. マレージャコウネコのメスが裂傷を負ったため手術をおこないました。
- 11/15. 第31回動物のお話とスライドの会「家畜のお話」を開催しました。大阪市長選挙の啓発模擬投票をチンパンジー、オランウータン、ブタオザル、ヒツジたちの出演で行ないました。
- 11/16. ホッキョクグマの子が生まれました。
- 11/17. ペンギン5種の飼育数確認を実施しました。
- 11/18. ファンボルトペンギン3羽が小樽水族館のご好意で贈られました。
- 11/19. タスマニアデビルのメス“ミミ”の後足に



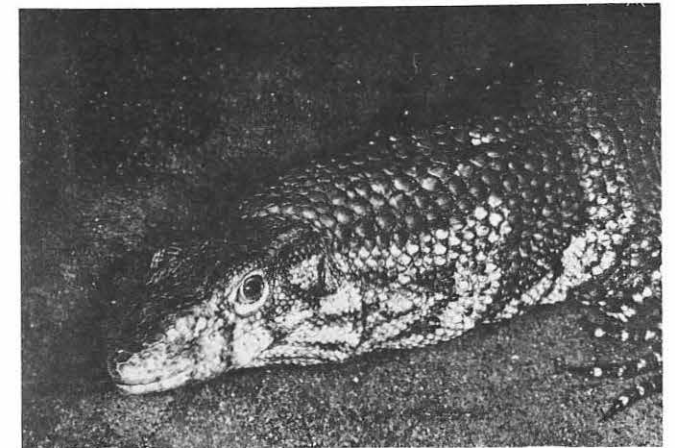
モルッカアオシタトカゲ
怒ると大きな口をあけ、青い舌を出して敵をおどろかせます。



マツカサトカゲ
オーストラリア南部に生息しているトカゲで名前の由来は見ての通りです。



ホオグロヤモリ
アオシタトカゲと同居しています。原産地は琉球列島や東南アジアからアフリカ、オーストラリアまで広い範囲です。体色は、わずかですが、変化します。



ザラクビオオトカゲ
当園で最も大きなトカゲで、全長は1.2m近くあります。原産地は東南アジアです。

- 腫瘍のような固まりができ、しだいに大きくなってきたため、手術を行ないました。
- 11/20. ホッキョクグマの子は順調に育っているようです。オスから咬傷をうけて入院治療をうけていたブタオザルのメスが退院しました。シシオザルの老メスが風邪をひいたので、治療をはじめました。
- 11/21. 気温が低下しつつあるので、夜行性動物舎の室温を少しずつ上げていっています。中国・西安動物園の趙獣医師以下4名の方々が来園、見学されました。
- 11/22. アカカンガルー舎で早朝、メスの“コリン”

- が衰弱し倒れていたため、保温し点滴を行ないました。
- 人工ふ化、育雛により成長したアカハシリユウキュウガモの3羽のヒナに個体識別のための足環・翼帯を取り付けました。
- 11/24. 角を折って治療中のバーバリシープのメスに麻酔して最終治療を施しました。
- 11/25. セイキチョウが5卵を産卵し、抱卵しているのを確認しました。
- 11/26. オオガラコのオスが裂傷をうけたので手術を行ないました。
- 11/28. 中国・上海動物園の御一行が来園されました。
- 11/29. キリン舎に暖房を入れはじめました。

平田 嘉一

△今年(十二支五番目の辰歳)は、竜は古代中国人の想像した変幻自在の霊獣で、頭に角、胴は大蛇のようなウロコ、鋭いツメのある四足をもち、春には天に登り、秋には川に入るという。また、雲を起し、雨を呼び、神霊はかきまわらざる獣でいかに尊ばれているかは、龍座、龍顔など、天子の座の尊称として用いられるところをみてもわかるというもの。

△今年、京都府竹野郡丹後町徳光、高山古墳群の十二号墳(六世紀後半～七世紀中ごろ)から、金箔を張った環頭太刀(かんとうち)の環頭柄(つか)の先端についた環状の装飾二点が見つかった。環頭二点は、銅製金張りで、うち一点は二匹の竜が向かい合って玉をくわえる姿を透かし彫りにした双竜環頭で竜文などに細かい刻み目が施されている。

△竜は空想的な動物で、恐い顔をしているので、辰の郷土玩具は少なく、辰年が終ると姿を消してしまうものが多いが、おもちゃに仕立てると実にユーモラスな作品になる。

△さて辰の郷土玩具の代表的な作品をあげてみると、京都の伏見人形に各種の秀玩がみられ、福島県三春張子竜車(昭和五十一年年賀用切手)、島根県出雲張子竜、山梨県甲府の福竜と鳥取県岩井の木竜が昭和三十一年の年賀用切手のデザインに採用されている。そして本年(六十三年)の年賀用切手には岡山県倉敷の張子の辰



倉敷の張子の辰

敷張子の辰が採用された。倉敷張子は、明治維新で失職した旧倉敷藩士の手内職として生まれ、明治二年、生水多十郎の創始による。古くから岡山県内の農家で端午の節句の祝い品として用いられ、同県の伝統的工芸品に指定されている倉敷張子の辰で四代目生水(おみず)幹一氏の作品。

△京都、伏見人形の龍乗り海女は、白い肌に赤い腰

巻をして玉を持った姿で艶っぽい感じがする。その昔、我が子のために海女の母が海中にもぐり、竜の守る玉を取りに行き竜に追われて乳房を切り、この玉を入れて陸上にあがり、我が子に渡したという。そしてこの玉を帝(みかど)に献上したとのことで謡曲にもなっている。



伏見の龍乗り海女

△島根県出雲市今市町産の張子の辰は、出雲神話で有名な八岐大蛇(やまたのおろち)は皇位継承のしるしである天の叢雲(むらくも)の剣をのこした。この地方では、その大蛇(辰)が採鉱冶金(やきん)や農作物の雨乞い、さらには無病息災や立身出世にも霊験があるといわれてこれを祀り、また出雲神楽の代表的種目にもなっている。張子の首振り辰は出雲神楽の八岐大蛇を玩具化したものである。

△山梨県甲府の福竜は、甲府盆地、竜王町にまつわる伝説にちなんで作られた木製の竜の郷土玩具。その昔、この地方一帯は湖で耕地が少なく、生活が苦しかった。あるとき地藏尊が通りかかり、湖の主の竜王に相談したところ、竜王は快よく聞き入れて昇天し、水をひいて豊かな田畑になったという。

この竜にあやかって竜神招福とし、火難水難からのがれ、田畑を守り厄よけの縁起ものとされている。戦後創作されたもの。辰の落し子を図案化して作られ、緑色を主体に金、赤、黒で彩色し、手に持って振ると口がカタンカタンと音がする。

△滋賀県小幡人形の駒抱き童児は、将棋の駒の上に鶴が羽を伸ばし、童児が駒を抱いた目出度いもの。辰年には、題材が少ないため、駒を「龍」に仕立てたのは名案というところだろう。

△栃木県佐野の鳴龍鈴 日光山内薬師堂の天井に画かれた龍は、狩野安信の筆と伝えられている。その頭部の真下に立って、手をうつと、あたかも龍がこたえるが如く反響があり、これを鳴龍という。鳴龍に

ちなんで作られた土鈴。

△奈良県春日大社の辰 春日大社では、毎年その年のエトにちなむ一刀彫の十二支を縁起ものとして授与する。これは昭和二十七年(辰年)の作品である。辰の郷土玩具は数は少ないが、この木彫の辰は傑作である。



春日大社の木彫の辰

△滋賀県小幡人形の浪のり竜 辰という架空の動物を、いかに表現するかという技術はむづかしい。小幡人形には動物の人形が多い。この辰は、いかにも小幡人形らしく辰の郷土玩具のお手本みたいなようだ。△福島県三春人形の辰車 我が国の張子人形の代表的な三春で、エトにちなんで毎年新しく作り出されるものの一つである。張子の辰に木製の両輪がつけられていて、色彩もはなやかである。



三春辰車

△岐阜県姫土人形扇熊谷 歌舞伎「熊谷陣屋」の題材を人形に仕立てたもの。袴姿の扇熊谷に竜の文様が画かれている。

△秋田県中山人形の辰鈴 南部藩の陶工が横手市外、中山にかまをきづいて作り始めたといわれている。土のなめらかなほだあいと、あざやかで明るい色彩に特色がある。

△佐賀県能古見(のごみ)の辰鈴 昭和三十八年辰

年の年賀切手になったもので、同県鹿島市能古見の祐徳稲荷の参詣みやげ物として戦後作られたもので、製作の歴史は浅いが、土人形の味を生かして洗練されたデザインに特色が見られる。



能古見の辰鈴

△十二支の郷土玩具 郷土玩具の発生原因には、信仰的に作ったものや子供にあたえるものなどがある。当然のように「十二支」と郷土玩具との結びつきも起ってきた。十二種の動物の中では、牛、馬、猿、犬などが、全国各地に見られる。やはり、これらの動物は人間の長い生活史の中で親しまれてきた。材料は、手近な土、木、わら製などで手作りのものが作者の心がこめられていて、製作地は全国各地で作られ、それぞれの土地の特色を生かしている。

△絵馬 正月になると、全国各地の社寺では十二支にちなんだ絵馬が授与されて、それぞれ、その図柄には力をそそぎ、一流の画家によるもの、美術的なもので製作され毎年楽しみのものである。そもそもこの絵馬は昔、神様の乗りものとして生きた馬を献上したことに始まり、後にこれに代わるものとして板に馬を画いて奉納されるようになり、さらに変化して自分の願いごとの絵を画かれるようになった。第二次世界大戦後は世相の変化が著しく、このような風習も見られなくなった。しかし、昭和三十年頃から社寺より授与されるようになり、今日では全国各地で出されている。また奉納絵馬も学校の合格祈願というものが多く見られるようになってきた。中には観光みやげとして出ている絵馬もあり、時代の移り変わりを感ぜさせる。辰年にちなみ、昇竜の勢いで経済の好転を望みたいものである。

(郷土玩具蒐集家
「近畿おもちゃ通信」編集発行人)

高田 栄一

(1) 十二支の辰(竜)について



作者とインドニシキヘビ

本来、十二支のエトとして登場している動物は、人間のくらしにいろいろな意味でかわりをもつ実在の動物の筈である。ところが一種だけ架空の動物、辰(竜)が加えられている。なぜだろうか……。

実在の動物は、家畜として、あるいは狩猟の対象としての動物が主となっている。ネズミは、せっかくの穀類を食い荒す敵で家畜とは言えないが、捕えて食べれば美味だった筈である。ヘビは、有毒種(マムシなど)は敵であったが、憎いネズミを捕えてくれる味方でもあった。手も足もない姿で神出鬼没、ひと咬みで相手を仆す超能力の持主として畏敬し、十二支に加えられた。トラは最強の動物で、人類が憧れる強さのシンボルであった。十二支に加えられたのは当然である。

さて辰(竜)であるが、人類の強さへの願いは、超能力のヘビと強さのトラを合体させたら、ということまで、発想が進んだのかもわからない。

そして……ヘビとトラだけでなく、さらに各動物の際立った特徴を加えたら、凄い動物が出来あがると考えたにちがいない。

竜は、考えつく動物十種類を合体させて、創造されたのである。人間の強さへのロマンの作品である。

十種類の動物とは……。本体は蛇。これに各種の特徴を加えていく。眼は虎、鼻は獅子、鬚は海老、頭は牛、角は鹿、手足は鱈、背鱗は大魚、爪は鷲、牙はあまた猛獣のやつを……となっている。

これらの動物の特徴が、造型的にも完成された美をもって、竜の姿になった。むかしの時代に、すばらしい想像力をみせていたのだから、たいしたものだ。

この竜は、架空の動物でありながら、時に応じて現存している動物以上の生命感をもって、東洋人の心に棲みつてきたのだ。

地名に、人名に、ことわざに、文学に、宗教に、挙げればキリのないほどに、私たちのくらしの中に溢れている。

『海千山千』という言葉がある。「あいつは海千山千だから気をつけてつきあえよ」などと悪い意味に使われているが、本当は海に千年棲み、山に千年棲んで大経験を積んだヘビは、竜となって天に昇る、ということからきているのである。

いずれにしても、東洋に於ける竜は、強い正義のシンボルとして、架空合成の動物でありながら、生きて心の中に存在しているのである。

(2) 西欧のドラゴンについて

竜、つまり英語ではドラゴン(Dragon)。西欧に於けるドラゴンは、正義の動物としては現れてこない。むしろ邪念をもった存在となっている。ギリシャ神話では、ドラゴンはサタンのごとく、口から火を吐く悪魔ということになっている。

ラージサーペント(Large Serpent)、つまり大きなヘビがドラゴン(竜)になった、というあたりは東洋の竜に一脈通じるところもあるが、それにしても、悪魔扱いのドラゴンと東洋の正義の竜とはたいへんな違いである。

おそらく、宗教観の中で、人の心にある邪悪を、ドラゴン(竜、トカゲ)のかたちの上で捉えているのだろう。旧約バイブル創生紀に現れるヘビも原罪として捉えられる存在だから。

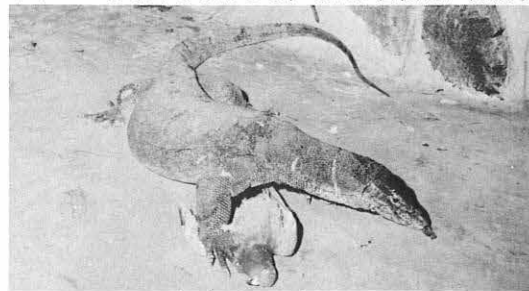
考えてみれば、東洋の心の竜のほうが、単純明快でたのしくなるではないか……。

(3) ドラゴン(Dragon)と呼ばれるトカゲ

英語名で正式にドラゴンと呼ばれているトカゲは何種類かいるのだが、しかしこのドラゴンの名には、分類学上の必然は全くない。

それなのになぜドラゴンとつけられているのか……。

おそらく最初の発見者、目撃者がいわゆる素人(シロウト)であって、冷静を欠いたコンディションの中での報告が、そのまま英名となったのであろう。その場合は、大きい、とか、突然飛び下りてきたとか、凄い顔をしていた、とかいうイメージだったと思われる。トカゲ(Lizard)ですむものを、敢えてドラゴンと呼んでしまっ、それが習慣的に伝えら



ミズオオトカゲ

れ、英名とされた、といったものである。

しかしドラゴンと呼ばれるトカゲの中で、一種だけドラゴン(竜)のイメージに恥じない存在がある。

コモドドラゴン(Komodo Dragon: Varanus komodoensis)である。

しかし結論的には恐竜の子孫でもなく、オオトカゲ族 Varanus の一種にすぎないわけで、仲間にミズオオトカゲ(Water Monitor: V. salvator) やナイルオオトカゲ(Nile Monitor: V. niloticus) など30種がある。

コモドドラゴンが正式に分類されたのは1912年で今から70年ほどまえである。最初の発見者は、その大きさに驚き、絶滅恐竜が生き残っていた、と報告した。それから正式調査が行なわれ、オオトカゲの一種とわかったのであった。

筆者は先年、専門家として日本人初のコモド島大陸に成功し、くわしくコモドドラゴンの観察を行な



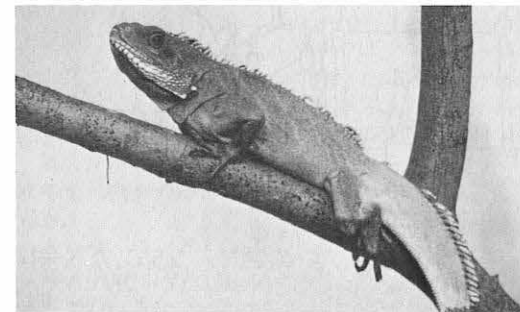
コモドドラゴン

った。このときの記録はノン・フィクションのタッチで拙著『蛇トカゲ亀ワニ』(北隆飯版)の中で描いているので、読んで頂けるとありがたい。

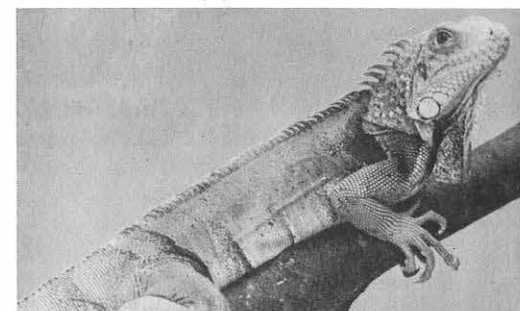
はなしを戻して、筆者が現場で目撃したドラゴンは、たしかに巨大であった。全長3メートルはあったように思われる。最初の目撃者が7メートルもあって、と70年前に報告したのはいささかオーバーであって、どんなに大きくても4メートル弱ではあるまいか。なぜなら、コモド島の食物連鎖の関係からみても7メートルの巨体は存在不能であろう。

性質は他のオオトカゲにはない激しさを持っていて、生きたヤギをひと咬みで殺す迫力がある。しかも殺したヤギを唾えて持ち上げ森の中に運びこもうとしたから、たしかに3メートルの力はある。ドラゴンの名に恥じない。

つぎには、ウォータードラゴンだ。(Water Dragon: Physignathus cocincinus)。東南アジアにいて、全長50センチ、樹上性のトカゲである。ときどき地上に降りて水に入る。



ウォータードラゴン

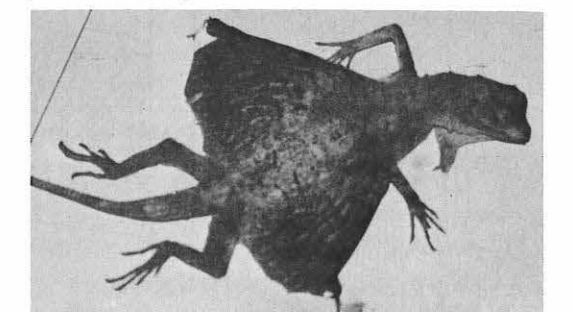


グリーンイグアナ

筆者はこれを永年飼育してきた。背に列突起が並び、オスは下あごにピンク色のおしゃれをしている。南米のイグアナに似て、いささか恐竜的イメージがあってドラゴンと呼ばれることになったのだろう。餌は昆虫、肉片、それに果実類。オスのテリトリーを確保してやり光線量を十分に与えると、飼いきついトカゲである。

一昨年、エリマキトカゲが二本足で駆けたためにブームとなったが、ウォータードラゴンもエリマキ以上に二本足走行が得意である。

マレーシア方面にフライングドラゴン(Flying Dragon: Draco maculatus)がいる。全長5~6センチの全く小さいトカゲだが、チョウが舞うようにひらひらと飛んで、枝から枝へ移動する。翼があるわけではなく胸骨が横に大きく開き被膜がひろがるので空中にとびだせるわけだ。



トビトカゲ

筆者はこの飼育も経験してみたが、環境の変化に対応力がなく長生きしてくれなかった。いずれにしても、ドラゴンのイメージは浮かばない愛すべき小トカゲである。

オーストラリアではアガマ科のトカゲを、Dragon Lizardとして分類したがる傾向にあるが、それでもドラゴンと名づけているのは、ほんの数種にすぎない。

このアガマ科のトカゲは、旧大陸独得のもので、新大陸ではイグアナのグループで占められている。

オーストラリアのドラゴンをいくつか列挙してみよう。

アゴヒゲトカゲ(Bearded Dragon: Amphibolurus)は全長50センチ、興奮するとエリマキトカゲと同じように首にある長い骨をひろげる。突起のある皮膚が伸びてひろがり、いかにもアゴヒゲである。

デアリングトンドラゴン(Darlington's Dragon: A. darlingtoni)、ペイントドラゴン(Painted Dragon: A. pictus)、マウンティンドラゴン(Mountain Dragon: A. diemensis)などがある。どれも全長20センチ程度の小型種だが、何故かドラゴンの名で呼ばれている。

以上7種ほどドラゴンの名のトカゲを紹介したが、改めてドラゴンと呼んだ必然をかんじる事ができなかった。

かつて、コモドドラゴンを「コモド竜、などと訳した専門書もあったが、イメージからいえば、ナンセンスであったのだ。(高田爬虫類研究所代表)

(参考= 高田栄一著、『爬虫類の超能力』(講談社版)にくわしくコモドドラゴン、ウォータードラゴンのことが出ております)

動物園ニュース

ケンちゃんの好きやねん動物園 まんが 公葉 健

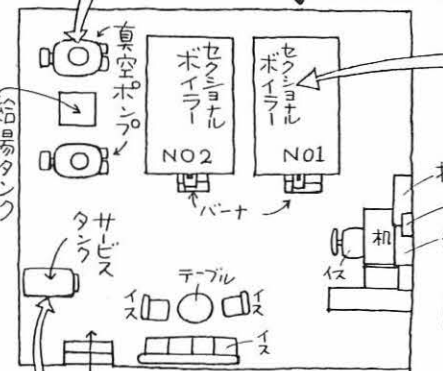
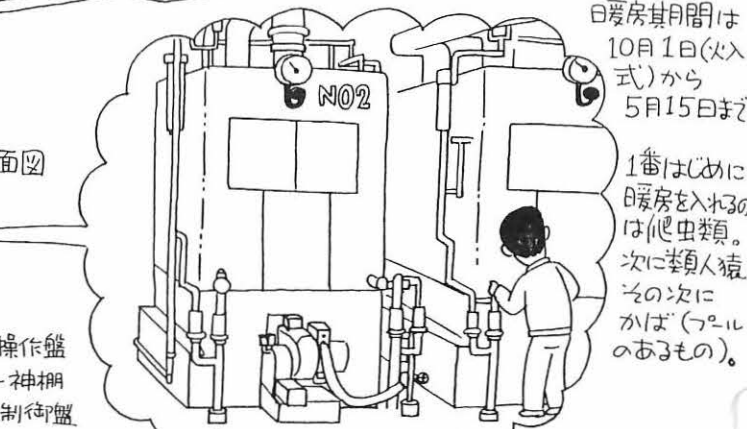
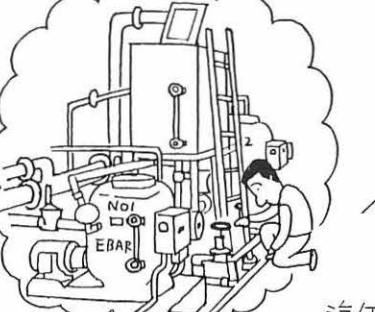


汽缶室には暖房するための機械が並んでいます。坂上さんの説明をきいてみると、①地下タンクに貯蔵した重油を②いったんサービスタンクに入れて③バーナへおくる④セクショナルボイラージ燃焼⑤パイプで各動物舎へ熱い蒸気をよく暖房⑥冷たい蒸気を真空ポンプで引きもどす⑦給湯タンクで温めながらセクショナルボイラーに戻す、ということでした。

いま、7名が汽缶室にいるのですが、暖房期は、3交代制で24時間勤務とか。常に2名は勤務しないといけないので、2時間おきに検温に回るが冬の夜はこたえるそうです。



つまり汽缶室と動物舎を循環しているわけです。



動物舎指示温度表が壁に貼ってあります。
 ゴリラ舎、チンパンジー舎、オランウータン舎は20℃～25℃、カバ舎14℃～17℃、爬虫類舎---ワニ 22℃～25℃(水温23℃～26℃)大ヘビ 23℃～26℃、小ヘビ 23℃～25℃---日時計収容舎 20℃～25℃



ホッキョクグマの出産

今年の11月2日から出産準備のためホッキョクグマのメスを産室に隔離したことはすでにお知らせしましたが、待望の赤ちゃんが11月16日に誕生しました。

その日の朝、飼育担当者がホッキョクグマの産室に設置したマイクロフォンを通して「ミャー、ミャー」というネコの鳴き声のような赤ちゃんの声を確認しました。鳴き方の異なる2種類の声が聞こえますので、2頭以上の子供が生まれているものと思われる。数分間続く赤ちゃんの鳴き声が12月16日現在、毎日数回聞かれていますので、順調に成長しているものと思われます。母親の「ユキコ」は昨年に続き、2回目の出産でもあり、また今回は事前に産室に閉じ込めることもできたため、落ち着いて育児ができています。ホッキョクグマ舎は動物園の南の端に位置し、すぐ外を一般道路が通っており、阪神高速道路の出口や、JRの環状線などもすぐ近くにあるため、騒音が心配されましたが、聞き慣れた音にはそれほど心配はいらなかったようです。

しかし、飼育担当でさえ動物舎には近づかないようにしており、オスの「ユキオ」も産室には収容していません。このままの状態でも2ヶ月余りは、母子を暗い産室に閉じ込め、絶食のままで隔離しておく予定です。マイクロフォンを通して聞くことのできる赤ちゃんの鳴き声だけが唯一の確認方法です。見ることができないため、心配なことも多いですが、順調に成長してくれることを願うばかりです。

日本の動物園での育成例は、北海道の3つの動物園でのみあるので、うまく育成させることができれば本州以南の動物園では初めてのことです。このまま順調にいけば、今春には母親の後を歩いて歩くかわい子グマを観望いただけるでしょう。

ファンボルトペンギン来園

今年の11月18日、ファンボルトペンギン3羽が小樽水族館から来園しました。当園ではファンボルトペンギンは1羽になってしまっていたため、待望の来園となりました。来園した3羽はいずれも小樽水族館でふ化したもので、2羽は一昨年の1月と6月に、1羽は今年の1月にふ化した若いペンギンたちです。昨年生れのもはまだ黒っぽいヒナの特徴を残しています。



さっそくペンギン舎で他のペンギンと見せ合ってもらいましたが、心配した闘争もわずかに見られただけで無事に同居させることができました。小樽水族館とは与えている餌が異なるため、当園で与えているアジをうまく食べるかどうか心配し……

現在の飼育動物数 (1987年11月30日現在)

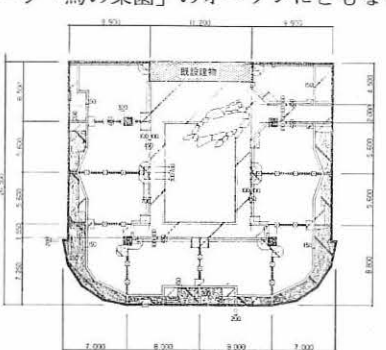
哺乳類	13目	105種	443点
鳥類	20目	202種	639点
爬虫類	3目	36種	98点
計	36目	343種	1,180点

したが、3羽ともすぐに食べ、環境にも慣れたようです。

小樽水族館へは、来春に当園生まれのオスのカリフォルニアアシカを送る予定です。

水禽放養舎、改造始まる

バードケージ「鳥の楽園」のオープンにともない空室になった北園の水禽放養舎は、ツル舎に転用することになり、改造工事が天王寺博覧会の終了を待って今年の11月9日から始まり、11月29日(日)で完成。完成後はツル舎のタンチョウ、マナヅル、クロヅルなど6種11点のツル類とオオハゲコウを移す予定です。また、ホオカザリヅルはメス1羽で飼育しているため、完成に合わせて東京都多摩動物公園より、オス1羽を借用する予定です。



大阪市長選挙啓発模擬投票

昨年11月29日は大阪市長選挙の投票日でしたが、それに先立つ11月15日の日曜日に北園ステージで模擬投票が行われました。バンドなどのスイングの動物が園内をパレードした後、ステージで本物の動物たちも参加して模擬投票が行われました。オランウータンの「サブ」、チンパンジーの「ミナミ」、ブタオザルの「マサアキ」、ヒツジの「アカネ」が次々にステージに上り無事に投票をすませました。



お知らせ
 えとのおもちゃ展
 恒例のえとのおもちゃ展を北園展示館で、1月2日から31日まで開催します。
 動物のお話とスライドの会
 1月17日(日) ドラゴンのお話
 2月21日(日) バードウォッチング
 3月20日(日) 動物クイズ
 時間: 午後1時～2時
 於: 北園レクチャールーム

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3日曜日(休日の場合は翌日)です。3月までの休園日は下記の通りです。
 1月18日(月)、2月15日(月)、3月22日(日)
 開園時間は、9時30分から5時までで、4時に切符売止めになります。

ゆとり満喫、信頼のカード。



ショッピングから海外旅行まで、
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード (キップス) KIPS

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの
ご利用にはいろいろな特典が。

近鉄百貨店 お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ
●アベノ店7階 ●上本町店10階 ●東大阪店本館 ●奈良店4階 ●西京都店1階
(京都ファミリー)

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしとかいかたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしとかいかた

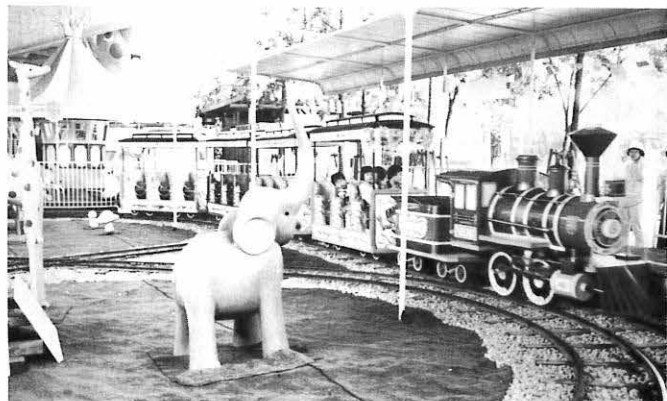
野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしとかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 **ひかりのくに株式会社** 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりものが待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

いま、フィルムは 頭脳をもった。



高画質時代をリードする
はるかに美しく

フジカラー SUPER HR

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキで
お申し込み下さい。

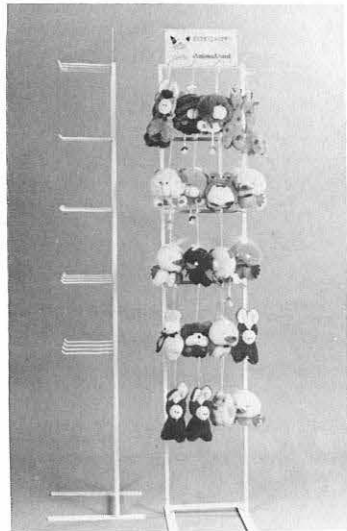
動物観察の手引に
天王寺動物園

ガイドブック

のご購読をおすすめします。
(1冊¥450)園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

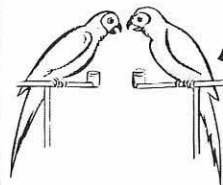


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

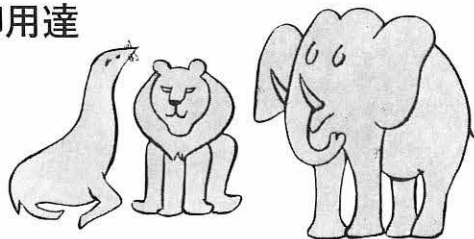
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

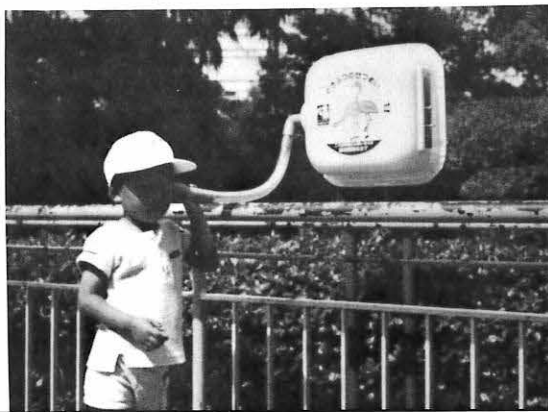


有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話 (078) 221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

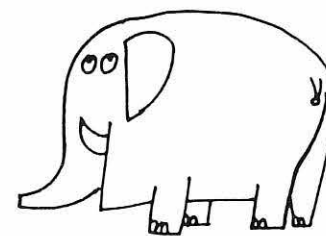
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内

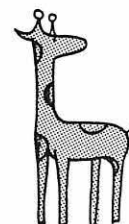


南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は… 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしく願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

もっとおいしく もっと元気に！……雪印



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ



雪印ヨーグルト 130g・250g

おなじみの果肉入りヨーグルト

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。
ホワイトを基調にしたシンプルなデザインで、ヨーグルトのさわやかさにも
ピッタリです。

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設



お申込み、お問い合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 昭和63年1月10日発行(毎月1回10日発行)第24巻 第1号 (通巻269号)

編集/大阪市天王寺動物園 〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗 電話 大阪 (06) 771-0201
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共) 振替口座 大阪 37823

編集委員 (土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/齊田 尚/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭)
 (森本委利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/藪野幸司/堀 弘/大川光雄/新出悦央/土谷正道)